

令和8年度

平島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、身につけた力を活用して適切に表現できる児童の育成
○自律的に学び、自らの問いを追求する授業の実践

校長

石橋 ゆかり

学力向上推進員

校長 教頭 学力向上主任
教務主任 研修主任
国語主任 算数主任
特別支援コーディネーター

【各校の取組状況の把握について】

管理職・教員相互による授業参観や、学年ごとに取り組み状況を定期的に報告する機会を設け、取り組み状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○書くことに対して意欲的で、目的を意識して文章を書いたり自分の思いを相手に伝えたりすることができるようになってきている。しかし、既習の漢字を使って書くことは十分ではない。 ○読書が好きな児童が多い。 ●漢字や計算等の基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られるものの、個人差がある。 ●文章から必要な言葉を押さえ、要約することを苦手としている児童が多い。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、活用することができる。 ・本や新聞、ICT機器等、学びに必要なものを選択し、活用することができる。 ・根拠を基に自分の考えを説明したり学年に即した表現を用いて文章に書いたりすることができる。	・語彙を増やし、相手に分かりやすく伝えるための書き表し方や発表の仕方を指導する。 ・ICTを活用して、視覚的な支援や協働的な学びのある授業づくりに取り組んだり、個人端末で自分のペースや学力にあった課題に取り組んだりできるようにする。 ・児童が身につけたスキルを学習の中で活用できる力を育成できるように、学習活動を工夫する。 ・読書の時間を確保する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○互いの考えを大切にしながら意見をまとめたり比べたりしながら話を聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童が増えてきた。 ●自分の考えを相手に分かるように言葉や文でまとめて伝えることを苦手としている児童が多い。	・相手の話を聞き、自分の考えとの類似点や相違点などを見つけたり、付け加えたりすることができる。 ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために方法を工夫することができる。 ・自分の考えを文章に書くことができる。	・ICT機器等を効果的に活用し、思考を深めたり自分の考えを柔軟に表現したりできるような指導の工夫を図る。 ・児童が自分の考えを見つめ直したり、伝え合ったり深めあったりする場を多く設定する。 ・例や選択肢、書き出しなどを表した手引きの準備をする。 ・5W1Hなどのヒントカードを掲示したり、手元に置いておけるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自らの問いや問題解決に向けて、前向きに粘り強く学習に取り組もうとする児童が増えた。 ○自分の意見を素直に発表できる児童が多い。 ●話の要点を押さえて、聞くことを苦手としている児童が多い。	・学習の中で自らの問いをもち、その解決に向けて、ペア学習やグループ活動を取り入れて協働的に学び、自らの学びを深めていくことができる。 ・相手の一番伝えたいことが何なのかを意識して話を聞くことができる。	・児童の興味・関心や思考の流れに沿った学習活動が展開されるように、授業づくりや環境づくりを工夫する。 ・児童の個々の考えを把握し、児童の問いを解決できる時間を確保する。 ・児童が大切なことが何なのかを理解しやすいように、話す手順や説明の仕方などを教師が意図をもって簡潔に話す。			